

【ATC フィロソフィー③④】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail :

m.toyohara@arcteccom.jp

開拓者と笑い

今月は弊社がフィロソフィー（考え方）を構築した背景と応援メッセージを紹介します。

会社経営にはフィロソフィーが必修だということで、稲盛和夫の京セラフィロソフィーを学び始め、今までに繰り返し 14 回見直してきました。結果、自主自立してものごとの本質や真理を掴まえる力を身に付けることを望む人向けに、独自に編集しています。そのため、推論を土台にした逆因果的な哲学や宗教や京セラフィロソフィーとは乖離してきています。

人間の使命は開拓者

人間の使命は、新たなことを創造し開拓していくことです。純粋な心で、人が喜ぶことを思い描き、強く願望して、創造していきます。

誰も手がけたことのない新しい分野を開拓していくのは容易ではなく、頼りになるのは自分たちだけです。開拓するということはたいへんな苦

労が伴いますが、反面これを作り遂げたときの喜びは何ものにも代えがたいものがあります。このような未踏の分野の創造によって、すばらしい事業展開に繋がっていくのです。

どんなに成功しても、私たちは未来に夢を描き、強烈な思いを抱く開拓者としての生き方を取り続けなければなりません。

人間ならば常に新しい道を歩いて行かなければなりません。不安にかられながら、手探りで一歩ずつ歩いて行くわけです。

例えば、「人のほとんど踏み入っていない山野を歩いていく。岩に足を取られ擦り傷だらけになりながら進んでいくと、突然目の前に現れるイノシシやカモシカに驚いたりしながらも、一歩ずつ歩いていく。ふとはるか下の麓を見ると、舗装された、いい道路があって、そこを車や人が通っている。その道を歩けば、ずっと楽に行けるだろう」

と思うが、「舗装されたいい道」とは、専門家が教えてくれる道、あるいはみんなが通っていく道を意味します。「でも、我々が歩くところは、人間の歩く道ではないのです。みんなが行く道は立派な舗装道路ですけれども、我々は開拓者だから、何か新しいことを開発しなければならないが、人が大勢歩いているような道には、もう何も残っていないはずだ。それよりは、獣道のほうが、新しい発見もあって、面白いだろう。全身傷だらけになるかもしれないけれども、我々はこの道を歩いていこう」と、このように考えます。

そのような獣道には、道路標識のようなものは当然ありませんから、自分自身で考え判断していくしかありません。

フィロソフィーは開拓者の
羅針盤

開拓者は、世ため人のために未知の分野を切り開いていく人です。誰も手がけたことのない

新しい分野を開拓していくのは容易ではなく、頼りになるのは自分たちだけです。

そのときに、考え方や判断の基準の羅針盤として、「フィロソフィー」を活用します。『フィロソフィー』には、人生を生きる時の羅針盤としての機能を持たせています。

重要なのは、人間として何が正しいのか、表裏なく見返りを求めない、純粋な心で、相手が喜び満足するにはどうするか、そのことをあらゆる考えられる限りの事象で、考えた内容を纏めたのが、『フィロソフィー』です。

つまり、何が人間にとって「善」なのか、あるいは、何が本当の「利他」なのか、ということ、すべての事柄で考えなければならないことなのです。例えば、「楽だから、効率がいいから」という観点から仕事のテーマを選ぶ、それは利己で判断をしているわけです。そうではなく、「この仕事は社会やみんなのためになる。皆が喜び満足する」と考えられるなら、いかに難しいテーマであっても敢然と挑戦する。そのように善か悪か、または、エゴか思いやりか、という基準で判断を行います。心を静め、自分の進むべき方向を自分自身で『フィロソフィー』

使い考える。確かにたいへん厳しい生き方かもしれませんが、それを習慣にすれば、正しい判断ができるようになるのです。

チャレンジ精神を持つ

人は得てして変化を好まず、現状を守ろうとしがちです。しかし新しいことや困難なことにチャレンジせず、現状に甘んじることは、すでに退歩が始まっていることを意味します。

チャレンジというのは高い目標を設定し、現状を更に良くしようと常に新しいものを創り出していくことです。チャレンジという言葉は勇ましく非常に心地よい響きを持つ言葉ですが、これには裏づけが必要です。困難に立ち向かう勇気とどんな苦労も厭わない忍耐、努力が必要なのです。

「チャレンジ」「挑戦」という言葉を我々はよく口にしますが、この挑戦とは、「戦いを挑む」ということです。「何々にチャレンジしよう」と言えば恰好良く聞こえます。しかし、それは、格闘技にも似た闘争心を伴う戦いであることを意味します。また、チャレンジをするためには、いかなる困難にも立ち向かう勇気、そして、どんな苦労をも厭わな

い忍耐と努力が必要なのです。

逆に言えば、勇気に欠ける人、忍耐力に乏しい人、努力を怠る人、そういう人には向かないのです。

軽々しく挑戦すれば、とんでもない大失敗を招いてしまいかねませんから、どんな障壁にぶち当たろうとも、それを乗り越えて努力を続けていくというタイプの人でない限り、チャレンジをしてはならないと思います。

例え、途中で失敗しても、まだ実力が不足しているのだと考え、達成する為に必要な知識やスキルを更に身に付けて、実力を高めていく忍耐力や努力が要ります。体力、胆力、判断力、断行力、精力、能力を高めるようにしましょう。

※2026 年 01 月号に続きます。

今月の応援メッセージ

笑いの効用

お笑いの効用について少し考えてみました。あの中村天風の文章にもお笑いの効果に関するものがありました。紹介します。

【笑いは開運剤】

人間は万物の霊長として創造という大きな使命を行うために、この世に生まれたのですから、一面においては他の生物とは比較にならないほどいろいろな恩恵を授けられています。が、その反面においては、その人生に重い大きな負担を負わされています。したがって実際に生活を営みときには、計り知れない苦しみと悩みがあるのです。

そして、「笑い」というものは、その苦しみや悩みに疲れる心や体を、程よく調和させる、人間にだけ与えられた特別なものなのです。その証拠に、苦しみや悩みに襲われた時、何かおかしなことがあって思わず笑えば、どれだけその苦しみや悩みが軽くなるかわからないでしょう。

第一に、いつもニコニコしている人に病弱な人いますか？笑顔で悲観している人や、その精神を消極的にしている人いますか？実際に、ニコニコ笑顔の人のそばにいるのと、難しいしか

め面をしている人のそばにいるのと、どちらが気持ちいいですか？笑顔の人のそばにしていると、何となく嬉しくなり、多少の悩みや悲しみがあっても忘れてしまいうでしょう。笑いは無上の強壮剤なのです。

笑いは薬よりも効果があり、体の不調を治すには、薬も必要だが、それ以上に笑顔に効果があるのです。無理にでもいいから笑顔を作ると、それに脳が反応し、体までもが整う方向に向かうのです。

薬の効果をより引き出すために、笑顔をつくる。笑顔の力は思った以上に凄いものがあります。

悲しいことや辛いことがあったら、思いっきり笑ってごらんなさい。悲しいことや辛いことの方から逃げて行きます。

笑えば心持ちは、何となくのびのびと朗らかになります。鬱な気が開けるのです。試しに、おかしくもなともないときに、「ワハハ」と笑ってみると、笑うにつれ腹が立ってくるとか、辛くなって来るとかは、絶対に無いのです。

この効用を応用しましょう。この笑いというものは、我々人間に与えられた特殊な作用です。他の生物には、人間のように笑うという表情をもって、心の喜

びを表現する作用はありません。人間のみにも与えられた特権です。この特権を応用して人生を送りましょう。

豊原 信